

こやブランケット

ニュース 2025 vol.32 秋号

米阪パイル織物(株)

和歌山県橋本市神野々 720

TEL: 0736-32-1404 / Mail: info@yyypile.com

営業時間: 8:00~17:00 (土日祝除く)

弊社HP

商品の詳細はQRコードをチェック!



チラシ見ていただいた方限定!
まとめ買いは相談に応じます。
詳しくは弊社まで連絡を!



全てのヒトが花火を楽しめる未来を!

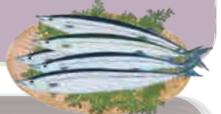


2025年の夏も暑かった。気象庁によると観測史上およそ130年で最も暑かったらしい。グラフで見ると平年よりダントツに気温が突出している。この傾向を早くに止めないといけない。様々な周囲環境からも変調を感じるようになった。「線状降水帯」や「大気の流れ」といった、今まで聞き慣れない言葉も聞くようになり、各地で自然災害が多発傾向にある。土砂崩れ、車の水没や転倒、道路の陥没等今までにあまり見なかった。強烈な日射で農産物が育たない。育てた野菜や果物が変色、焼けがひどく商品にならなかったとか、水産物が本来水揚げ地だったところが、魚がいなくなり、より南方の魚が捕れるようになったなど。TVのニュースで誰もが一度は見たことがあると思う。一方、不漁が続いたサンマが今年は豊漁とのニュースを聞いた。近年の不漁のせいで高級魚となり、家庭の食卓から遠ざかったサンマが戻ってくるのは待ち遠しい。世界の首脳の話が活発化している。米国の首脳会談で、ロシアによるウクライナ侵攻が治まるかと思われたが、直後に激しい爆撃もあり、相変わらず市民の命が脅かされている。コロナ禍が過ぎ、各地の祭りが戻ってきた。万博でも人気のイベントで、多くの人が集まる花火は日本人の心に刺さる。TVで見ると、音や振動を体感できる現場近くが最も好まれる。最近では、色がグラデーションを伴い変化するもの。一旦破裂して飛び散った粒子が動き回るもの。ハート型や星型のもの。一番高くまで登る特大の一発は音響が時間差で身体全体に響き渡り、その美しい姿は感動を与える。しかし、ウクライナでは、既に数百万人の市民が外国に避難しており、戦禍をくぐり抜けたヒトには、火薬の匂いや爆音が戦争を彷彿させるものとなるのだろう。近い将来、火薬が人殺しの道具でなく、全てのヒトの心を和ませ、安心感を与える道具となる未来が来ることを願って止まない。



映画

2025年は映画の当たり年と言われている。「国宝」が実写邦画で22年ぶり興行収入100億円を突破し、「映画『鬼滅の刃』無限城編 猗窩座再来」が、前作「無限列車編」の407億円を超える勢いを見せている。この他、「ジュラシック・ワールド/復活の大地」「ミッション：インポッシブル/ファイナル・レコニング」等いずれも40億円超えの大ヒットとなっている。近年、スマホ等端末の普及で、ヒトのTVや映画館離れが囁かれており、その中で盛り返しは大きい。業界側が苦悩の末、対策が功を奏した形と思われる。「鬼滅の刃」を例にあげると、前回上映から時間が経っており、離れたファンを取り戻すため、直前に、TVで連日一挙放送により新たなファン層を開拓し、映画を見たヒトが無限城が想像を超える迫力で描画され、その強烈な音響で客の度肝を抜いたとの感想がSNSで拡散され、評判になったことも大きい。来館者限定の非売品プレゼントが一定期間で様変わりし、これを目当てのファンがリピート来館したこと、また、前作「無限列車編」で憎き敵役：猗窩座の過去描写で、悲惨な生活苦と恋雪との悲しい描写が観客の涙を誘い、映画を見終わったヒトの多くが猗窩座ファンになったヒトも少なくなく、このギャップが評判になったことも大きい。涙無くしては見られないとの噂が、家に籠りがちな老若男女の心を打った。最近の集客の傾向として、選挙も例外でなく、SNSツールをうまく取り込んだ者が勝つ図式が出来上がっている気がする。是非あやかってみたいところである。



日本の魅力

日本は江戸時代の長い鎖国体制から西欧技術の導入により急速な近代化が進んだ。製鉄、造船などの重工業が発展した。戦後から平成初期にかけては、石油化学、石油精製などの重化学工業が発展した。その後、自動車産業、エレクトロニクスなどの付加価値の高い産業が栄えた。最近では、中国にこの分野を譲ろうとしている。自動車・TV販売の不振などが顕著である。そこで注目されているのが、サービス業である。目に見える「モノ(物質)」ではなく、情報、知識、体験、利便性、快適さ、技術といった形のない「サービス」そのものを提供して対価を得る産業である。年々増加しているインバウンドに聞くと、治安の良さ、日本食の美味しさ、電車・バスが時間通り、日本製の漫画・アニメや音楽の魅力に惹かれて等、言われて気付くところもある。国自ら戦争に参加し、侵略、被爆、敗戦の経験を通して外国にない創造性を発揮できているのではなかろうか。外国人へのインタビューで、日本の印象を「漫画」や「アニメ」と答える若者が多かった。手塚治虫が牽引した漫画・アニメの道は、今まさに後進たちのアイデアと創造性の宝庫となっている。頑張れ日本!

